

水道局の仕事

～水道局ではこんなことをしています～

水道局には
いろいろな仕事
があります。
どんな仕事があるのか
見てみましょう!

安全でおいしい
水づくりのために



せつびや機械が故障しないように
定期的にそうじや点検をします。

水を安定して
届けるために



水道水がご家庭に届くまで24時間、
一日も休まず見守っています。

安心して水を
使ってもらうために



すいげん
水源からじゃ口まで、いろいろな
ところで水質けんさをしています。

事故が起こった
時のために



24時間いつでも工事ができる
ようにしています。

水道のことを
知ってもらうために



いろいろな水道の相談や申込み
を受け付けています。

備えましょう! 災害時の飲み水

いつ災害がくるかわかりません。大きな災害が発生した場合は、ライフラインの復旧が遅くなることも予想されます。

ご家庭でも1人1日3リットルを目安に、
3日分の水を備えておきましょう。



Q5

大きな災害に備えておく飲み水の量は、1人1日何リットルかな?

こたえ

何リットル
だったかなあ…。



水道はいつからあるの?

大阪の水道の歴史

昔、きれいな水にめぐまれていた大阪では、ほとんどの人が近くの川や井戸の水を使っていました。やがて町がにぎわって人がふえると、きれいな水がだんだんよごれてきました。明治19(1886)年、大阪で「コレラ」という伝染病が大流行し、明治23(1890)年には「新町焼け(今の西区)」と呼ばれる大火事が起こり、たくさんの人々がなくなりました。こうしたことから水道をつかってほしいという声が高まって、明治28(1895)年に大阪市の桜の宮(今の都島区)に水源地(じょう水場)ができました。



その後、大阪の人口がふえて水の量がたりなくなってきたので、大正3(1914)年に「柴島じょう水場(東淀川区)がたん生。昭和32(1957)年には「庭窪じょう水場(守口市)、昭和43(1968)年に「豊野じょう水場(寝屋川市)ができました。今では、3つのじょう水場をあわせると、一日最大243万m³の安全でおいしい水を作りだすことができます。

水道水でうがいをするという理由

かぜの予防はしているかな? 予防といえば、手洗い・うがい! 実は水道水によるうがいでかぜの発しょう率が40パーセントも低下するんだよ! 外から帰ってきたら、必ず水道水でうがいをしてかぜのウィルスをやっつけよう!

うがいの基本は「ぶくぶくうがい」と「ガラガラうがい」だよ!



Q6

大阪市水道局のじょう水場は、一日に最大何万m³の水を作ることができるのかな?

こたえ

3つのじょう水場があるよ!

